

トンボを観察しよう

1. トンボをつかまえたことのない人は、トンボとりをしてみよう。アミでとる時は、後ろからすばやくすくい取ります。糸の両端に小石をしばりつけた「ブリ」をなげて、ヤンマなどつかまえる方法もあります。
2. つかまえたトンボの体をよく観察しよう。大きな目(複眼)、がんじょうでよく動く羽、生きた虫をつかまえるトゲだらけの足、虫を食べる大きな下あご、細長い腹。どこがほかの虫とちがっているか、比べてみよう。
3. 飛んでいるトンボをよく観察してみよう。谷川にそってパトロールするオニヤンマ、池をぐるぐるまわるギンヤンマ、上空を気持ち良さそうに舞うチョウトンボ、コシアキトンボ、ウスバキトンボなど。羽の動かし方もよく見てみよう。飛行機とどこがちがうのかな？
4. トンボのとまる場所や、止まり方を観察しよう。止まり方でどんなトンボのなかまかがわかります。羽を閉じて止まるイトトンボやカワトンボ、羽を半開きにしてとまるアオイトトンボ、羽を開いて葉や岩の上に止まるサナエトンボ、羽を広げて枝などにぶら下がるヤンマやエゾトンボのなかま、羽を広げ、少し先を下げ気味にしてつかまるように止まるトンボ科のなかま(シオカラトンボやアカトンボなど)。
5. トンボの産卵のようすを観察してみよう。飛びながら空中から卵を落とすナツアカネ、水面や泥を腹の先で打ちながら卵を産むマイコアカネ、砂や泥に腹の先をつきさして産卵するオニヤンマ、水面に出た植物の茎や水中に潜って茎に産卵するアオイトトンボ、水面に浮かぶ植物に産むギンヤンマなど。オスとメスが連結したまま産卵したり、産卵するメスをオスがみはっているなど、おもしろい光景がみられます。
6. トンボの幼虫(ヤゴ)をさがしてみよう。小川や水たまりや、池のふちをアミですくって、ヤゴをみつけよう。深いところへ落ちないように気をつけて。
7. ヤゴを飼ってみよう。イトミミズなど生きたエサしか食べないので、忘れずに。羽化のための枝や石も入れてやること。
8. 羽化を観察してみよう。イトトンボなどの直立型、ヤンマ等の倒垂型。